

第3回南部町立小学校適正規模等検討委員会 議事録

- ◇ 日 時 平成26年12月17日(水) 午後2時00分開会
午後4時40分閉会
- ◇ 場 所 南部町役場分庁舎第201会議室
- ◇ 出席者 尾山幹雄委員 四條勉委員 若林一明委員 遠藤友佳子委員 森田和人委員
遠藤優一委員 佐野よし子委員 萩原敬委員 国友昭伸委員
若林正昭教育長 青木司学校教育課長 佐野武人主幹 若林将基主査
- ◇ 欠席者 深澤謙治委員 旗持文彦委員 佐野元気委員 山本純司委員 望月幸司委員
木内利明委員
- ◇ 資料(アンケート調査結果)については事前配布。

〔第3回検討委員会開会〕

- ・開会あいさつ 教育長
- ・委員長あいさつ 委員長

① 適正規模等検討委員会学校訪問(10月30日実施)について

◇ 事務局：資料により説明。

◇ 質 疑

委員長) 視察研修について、各委員のご感想を聞かせていただきたい。

委 員) 万沢小は校舎が立派であった。1学年2人のクラスがあり、認め合い、高め合いなど自我の形成において保護者として不安を感じた。睦合小は音楽授業を見学したが、多様な楽器を使用して迫力のある演奏であり、少人数の万沢小ではできないと感じた。集団的に行う授業について万沢小ではデメリットとして表れてしまうのではないかな。

委 員) 現地に行って実感がわいた。各先生が児童をきめ細かく指導しており、また掲示物もすばらしく先生方に負担があるのではと感じたが、小規模校なりの良さを感じた。睦合小は学校形態が出来ていると思った。私の勤務する職場の小学生を持つ保護者の意見を聞くと、小規模校ではPTAなど保護者の負担が大きいと言っていた。過小規模でなく、ある程度の児童数がある学校の方が良いのではないかなと思った。

委 員) 万沢小学校は先生が工夫した授業をしており、児童が生き生きとした様子であった。何人の児童がいれば適正化なのかわからない。小規模校は寺子屋の雰囲気があり、小規模校なりの良さを生かしてやっていっても良いのではないかなと思った。

委 員) 万沢小の校舎は木材を使った温かみのある校舎で、二つの学年を同じフロアに配置してあって、ホールで触れ合える空間を作り雰囲気の良さを感じた。掲示物も素晴らしい。小規模校では個に応じた指導ができるのではないかな。しかしながら、今回の視察を通じて自身自身の適正規模に対する方向性を出すのは難しい。

委 員) 万沢小の教室で児童が少なく戸惑ったが、参観した中で児童が一人ひとり黒板に出て答えるような授業方法を行っていたが、時間をかけて発表ができ、一人ひとりに丁寧に指導ができることが良いと思った。また、一人ひとりが大勢の前で意見を言えたり、発表ができることも素晴らしいと思う。これも人数が少ないからできているのではないかな。小規模校のデメリットばかりに目がいってしまうが、学年が0人、1人でなければ、万沢小はまだ

このまま続けられるのではないかと感じた。また睦合小はあれだけの規模だからこそ充実した音楽の授業ができ、また 6 年生の授業では切磋琢磨して取り組む姿勢が感じられた。

委 員) 自分が学校経営にあたっている時は、安全安心の学校で児童の生きる力の育成を第一に考えてきた。そういう点からみると、万沢小も睦合小も充分機能しているなどと思った。睦合小の安全面では徒歩通学の距離が長いのが気になる。万沢小は小規模のなかでも、目が行き届いており、アンケート結果では、競争心が育たない等の意見があったが、十分にやれていると感じた。多種多様な意見を聞くという面では、睦合小の規模の方が色々な機会があると感じる。しかし万沢小で解決できないかという点、そうではなくて学校交流など工夫しだいで出来ると思う。現時点では、急いで統合しなくても良いと思う。また 1 学年 2 クラス編成ができない状態での統合は適正規模等の本来の解決にはならないのではないかと考えている。

委員長) 低学年の時期はきめ細かい指導が必要なため小規模の方が良く、高学年は切磋琢磨の面からある程度の人数がいたほうが良いと感じた。算数の授業を見てもそう思った。やはり、2 人では社会関係はできず、3 人になってはじめて社会関係が構築されると思う。

② 「小学校適正規模についての意識調査」調査結果について

◇ 事務局：資料により説明。

◇ 質 疑

委 員) 自由意見の中で、中学校が統合した時に小学校も 25 年度に統合することになっていたという意見があったが実際にはどうなのか。

事務局) 答申、具申等の資料及び地区説明会の資料を見返したが、25 年度には小学校を統合するといった表現はなく、説明したこともない。21 年 9 月の地区説明会ではパワーポイントを用いて説明したがその資料にある小学校適正配置計画では、グループ分けをして今後の見込・計画を説明している。A グループは万沢小と富河小であり、「平成 25 年度以降さらに児童の減少が予想される場合、両校で統廃合を推進する」とされ、B グループは栄小と睦合小であり、「少子化が一層進行した場合は両校で統廃合を推進する」としている。町民の中には、25 年になったら統合をするものだと思った認識をされている方がいることは確かであるが、正式には今申し上げたとおりである。

委 員) そのように誤認識のまま回答されている方は、もし万沢小と富河小が統合すれば富河小に万沢の児童が通学するものだと考えている方が多いことが読み取れる。

事務局) そのとおり 25 年がひとり歩きしている。

委 員) 前回の答申を出した 21 年段階では 25 年を目安として、再度、児童数などを基に検証しようということであろう。

委員長) あらためて具申書を見ると「当面は小学校 4 校の現状を維持することが望ましい。万沢小学校は複式学級を含む過小規模校となっており、平成 25 年度以降更に減少が予想される場合は富河小学校との統廃合を推進することが望ましい。南部地区においては少子化が一層進行した場合には睦合小学校と栄小学校を統廃合することが望ましい。」としている。また、ここにも重要な点があって、全町的に統合するのか、地区ごとにグループを決め統合を推進するのかを考えなければならない。

委 員) 自由意見の中に身延町の学校統合の進め方に言及するものがあったが身延町の様子を教えてほしい。

- 委 員) 3町が合併したが旧町の地域住民の融合もうまくできていない面もあるのではないかな。今回、久那土地区が西島地区と統合し、西島小を使用することになっているほか、下部地区に学校がなくなる等の枠組みになっていることから、色々な反対意見がでている状況である。
- 委 員) 本町はそうならないようにしなければならない。どういう考え方や方法をすべきか委員として町民に答えなければならない機会もあるので、共通認識をもっておきたい。
- 委員長) 最初にも確認したが、子どもたちの教育を第一に考え適正規模を検討していく。財政面が理由ではない。
- 委 員) 下山中と身延中の統合は、下山の生徒が身延中に通うようになってしまった。また、相又小と身延小との統合も相又の児童が自ら身延小に通学を希望したため、町では1年前倒しして統合したと聞いている。したがって、生徒、保護者の賛成が多数であればスムーズに統合できる。下山中と身延中の統合においては3回で結論ができ、西島小と静川小の統合は10回やっても結論がでなかったと聞いている。そう考えると万沢地区で児童が富河小へ通学させたい意向が多数であれば別だが、現在は残してほしいとの意見もある状況なので議論は必要である。
- 委 員) 児童推計では32年までは全校27人を維持しているが、保護者が転居して富河小へ通わせるようになると児童数が変わってくる。
- 委 員) 数年前に万沢に転入してきた児童が、同性が1人であったので、富河小への転入を希望したのに受け入れられなかった。保護者はその辺を気にしている。
- 委員長) このアンケートを踏まえて、現在の委員の皆さまの意見をお聞きたい。
- 委 員) 万沢地区の男女のバランスについての結果は、他地区に比べ支障ありと考える方が多い。考察をするにあたって万沢の調査数が少ないのではないかと考える。意見を反映するには少ないのではないかな。万沢地区の保護者の意見を聞いてみたいと思う。憶測ではなく、直接会って意見を聞きたい。
- 委 員) 万沢の調査数が少ないというご意見もあるが、人口比で行ったものである所以結果は結果としてとらえた方が良くと思う。また、万沢地区の意見を聞いた方が良くという意見もあるが、詳しく地区説明などをするのは検討委員会で結論を出したあとの話ではないかなと思う。自分は団塊の世代で、当初は楮根分校で学び4年生の時に本校へ通学することになったが、はじめから本校で学んだ方が良かった。社会の若者を見ると言われなければやらない人間が目につき、丁寧な指導が裏目にでた悪いケースではないかなと思う。小規模校では時間的に余裕があり常に指導している状況なので、子供たちの自主性が発揮されていないのではないかなと思う。もまれて学習をした方が良い。
- 委 員) 図書館ボランティアとして万沢児童館、富河児童館へおはなし会に行った時、万沢地区の児童は個性の強い子供が多かった。悪く言うと協調性がない。一方、富河地区の子供はルールを守っていた素直に感じた。そういうところも学校規模で差が出ているのかなと思う。講師を務める高校の子供たちをみて、言わなければならない子どもが多いと感じる。重く手をかけられたことが原因でしょうか。統合か存続かの方向性については迷っています。
- 委 員) 私もどちらかとは決められない。今の子供は手をかけられているというけれど、大規模校だから積極的に行うようになるかというそうでもない。大規模校に勤務した経験から、大規模校の生徒だからすべてが切磋琢磨していくかといえばそうでもない。どんな教育

状況においてもメリットデメリットはあるので、その問題をどう解決していくかは学校現場のやり方だと思う。現状では、子供の数だけを見ればだれもがやがては統合しなければならないと感ずるはずである。調査結果の自由記述などを見ると、町民の感情的な意見が気になる。それらを検討委員会でどれだけ検討できるものなのかと感じる。とにかく時間をかけてやったほうが良い。

委員) 年齢に応じて社会性や学習能力をどれだけ高めなければならないのか目標基準みたいなものがあると思うが、それらの基準がこのアンケートの設問に入っていないのではないかと思う。私自身は小学校までは過度に競争せずみんな仲良く先生に目をかけていく時期だと思うので、人数もあまり大勢でなくて良いと思う。

委員) 一長一短があると思うが、クラスが2人の場合は個性が出すぎて協調性がなくなると思う。いずれにしても地域の意見を尊重して決めた方が良い。

委員) 前回の万沢小の視察をみても校長をはじめ万沢小を残す努力工夫をしていると思う。今回の調査結果を踏まえ、個人的にも町民の意見を聞いてみたい。12月議会においても、一般質問で統合についての質問があったが、議員のなかでもいろいろな意見がある。多くの議論の末に結論を出したい。また答申を出したあとにおいても、教育委員会では町民のコンセンサスを得て進めてもらいたい。

委員) 少子化のため限界を超えており、数値だけみると統合を進めるほうが効果的あると思っていた。委員の方の色々な意見を聞いて私もクラス人数20人位は必要だと思う。今回の結果を見て統合賛成が60%であった。私自身は当初統合していった方がいいのではないかと思っていたが、町の少子化対策を進めるなかで、今は統合について時期を置くべきではないかと思うようになってきた。児童数の推計が32年まで横ばいであるので、その間に町が少子化対策を積極的に推進した方が良い。その対策をしても児童数の減少が止まらなかったら、統合を検討するということ良いのではないか。その場合、対策をしたが少子化が止められなかったと町民に説明ができる。

委員長) 猶予期間については私も考えていた。25年以降更に児童数の減少があるかといえばそあではなく、現状を維持している状況である。教育長、町の少子化対策はどんな状況か？

教育長) 万沢の集合住宅の建設も対策のひとつである。

委員) 万沢地区で統合すべきと回答した方の意見があるが、その理由に無理がある理由がある。一つは子供たちの社会性についてで、学校規模だけでは一概に言えず、意欲、関心をどのように持たせさせるかというのは教育方法の問題である。どちらかというと現状で様子を見るということに賛成である。32年以降に再度検討すれば良いのではないか。

委員長) もし統合しない場合はデメリット対策をどうするか考えなければならない。もっとスキー教室や修学旅行などの合同開催等、交流を進める考え方をしなければならない。現段階ではこのアンケートの結果のみで統合に進んでいくことはできないという意見が多い。現時点では結論は出せないので、委員の皆さまもこの結果をもう一度よくご確認いただき、考えていただきたい。

③ 今後の予定について

◇事務局： 今、協議をしていただいたようにこの結果のみをもって判断することは難しく、特に万沢地区の統合した方が良いという意見は50%に満たない状況である。ついては、多くの意見を聞くため、意見交換会を開催したらどうかと考える。開催方法はシンポジウム

形式なのか、説明会方式がなのかなども検討しご意見をいただきたい。

◇ 質 疑

- 委員長) 地区説明会や意見交換会は答申のあとの方が良いという意見もあるがどうでしょうか。
- 委 員) 検討委員会で方向性も出さない前に開催する方法もあるが、いろいろ意見が寄せられてかえって混乱するのではないか。
- 委 員) ひとつ地区だけで開催するのはどうか。開催するのであればしっかりとした理由づけをした方が良いでしょう。
- 委 員) アンケートの結果において統合すべき意見が多くなっているのは、児童数が少なくなっている結果を見て、仕方ないから統合すべきと回答しているのではないか。そういう意見をアンケートから拾い上げることが大切だと思う。少子化対策をしてほしい。
- 委 員) 万沢と栄で統合すべきという回答の数値が他の地区より低いのは、自分たちの地区を対象に考えたからであり、それらの方の意見を聞きたい。
- 委 員) 意見交換会はやった方がいいのか。よくないのか。どうでしょうか。
- 委 員) アンケート結果報告会というような形で、全域で参加できる方法にした方が良いでしょう。
- 委 員) 統合が決まっているかのような形に受け取られる。また、あたかも説得するような形として受け取られてしまう心配がある。
- 委員長) また、検討委員会が主催か、町が主催か。
- 教育長) 説明会などを開催する場合にはいろいろな意見が寄せられるため、町としての方向性が見えなければ質問に対する回答も難しくなる。南部地区、富沢地区で開催するか。
- 委 員) われわれは適正規模や適正配置について教育的視点から検討をしなければならないので、児童数が減らないから先送りするというのが良いことなのか疑問に思う。
- 委 員) 小学校の学区制はあるのか。
- 事務局) 居住地の小学校を指定校として保護者に通知し、特別な事情がある場合を除き、居住地の小学校に通学している。他町では学区の弾力化を図っている町もある。鰯沢中部小学校は地域の児童が鰯沢小学校へ通学してしまい、結果的に統合したと聞く。
- 委 員) 南部中が統合した時の様子は。
- 委員長) 町民の納得感はある程度あった。
- 委員長) 意見交換会の開催については、いろいろな意見があるので再度検討しましょう。
- 委 員) 仕事で出席できない委員がいるので、会議の開催は夜間に開催してください。

委員長) 以上で協議を終了します。

閉会あいさつ) 副委員長

第3回の検討委員会を終了します。

以 上